

## 凡 例

### 1 項目

神奈川県立図書館が所蔵している江戸期刊行資料から、56点（正統編を含む）を選定した。選定にあたっては、分野、年代が偏らないよう心掛けた。

<選定に使用した基本図書>

『国史大辞典』吉川弘文館 『日本古典文学大辞典』岩波書店『日本大百科全書』小学館

### 2 構成

資料の内容により「案内記・地誌」「歴史書・名鑑・伝記」「文芸」「医学・軍事」「くらし（日本・外国）」「諸芸」「思想・宗教・言語」の7章に分け、各章内は、原則として資料の成立・刊行年代順に配列した。

<記載した項目>

#### ①資料名

原則として当館での登録名を記載した。一般に知られる異名がある場合は（ ）内に補記または本文中で紹介した。

#### ②作者名

資料の著述や編纂に当たった個人または組織・団体を「作者」と総称した。作者が特定の個人の場合には、生没年を（ ）内に補記した。

#### ③刊行年

刊行年が明らかでない資料については、限定できる範囲内での記述とした。また、諸説ある場合には、最も一般的と思われる年代とした。成立年と刊行年が隔たる場合は、必要に応じて併記した。

#### ④解題

資料の内容、作者を中心に記述した。必要に応じ、資料本文の構成、当館所蔵本についても記載した。

#### ⑤本文を読む

資料本文を掲載・収録する当館所蔵資料（一部、未所蔵を含む）を、「翻刻」「影印」「復刻」等に分けておおむね刊行年順に記載した。なおこれらの分類については、各資料における記載を尊重した。原則として、江戸期刊行資料そのものについては記載しなかったが、翻刻等を所蔵していない場合や数種類の版本を所蔵している場合など、例外的に記載したものもある。部分的な翻刻等についても、必要に応じ記載した。

#### ⑥参考文献

当該資料を知るための主な参考文献を、おおむね刊行年順（発表年順）に列記した。

### 3 書誌事項について

書誌事項として、書名、著编者名、出版者、出版年、当館請求記号を記載した。図書の一部あるいは一論文の場合には、著者名、論文名（章名）の後に、それを収録する

図書または雑誌の書誌事項を（ ）内に記載した。なお、当館請求記号は[ ]内に記載した。

#### 4 その他

- ・漢字は、固有名詞、資料名などの一部を除き、原則として新字体を用いた。複数の表記が併存するもの（版元と板元、大阪と大坂など）については統一はしていない。
- ・年の表記は原則として和暦を用い、必要に応じてそれに対応する西暦を補った。ただし国外での出版、出来事に関してはこの限りでない。原則として『日本文化総合年表』（岩波書店）を参照した。
- ・本文中の資料所蔵者名や研究者名は、原則として敬称を略して記載した。

#### <執筆時の参考資料>

執筆に際して、各項の参考文献以外に以下のような資料を参照した。

- ・『国史大辞典』吉川弘文館
- ・『日本史文献解題辞典』吉川弘文館
- ・『寛政重脩諸家譜』続群書類従完成会
- ・『森銑三著作集』森銑三著 中央公論社
- ・『国書総目録』岩波書店
- ・『古典籍総合目録』岩波書店
- ・『日本大百科全書』小学館
- ・『世界大百科事典 改訂新版』平凡社
- ・『類聚伝記大日本史』雄山閣出版
- ・『日本古典文学大辞典』岩波書店
- ・『大漢和辞典』大修館書店
- ・『近世の文人たち』天理ギャラリー
- ・『国書人名辞典』岩波書店
- ・『講談社日本人名大辞典』講談社
- ・『日本女性人名辞典』日本図書センター
- ・『新潮日本人名辞典』新潮社
- ・『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社
- ・『演劇百科大事典』平凡社
- ・『世界美術大辞典』河出書房
- ・『原色浮世絵大百科事典』大修館書店
- ・『講座日本美術史』東京大学出版会
- ・『近世女流文人伝』明治書院
- ・『女流著作解題』日本図書センター
- ・『人物日本の女性史』集英社
- ・『江戸文人辞典』東京堂出版
- ・『江戸詩人評伝集』平凡社（東洋文庫）
- ・『横切った流星』松木明知著 メディサイエンス社
- ・『江戸人物科学史』金子務著 中央公論新社
- ・『清史稿』趙爾巽等撰 中華書局
- ・『技術に国境はあるか』富田徹男著 ダイアモンド社
- ・『讃岐人物風景<5>』四国新聞社編 大和学芸図書
- ・『幕末の洋学』中山茂編 ミネルヴァ書房
- ・『江戸女流文学の発見』門玲子著 藤原書店
- ・宮地哉恵子「幕末期における海外情報の受容過程：蘭書の輸入と受容形態をめぐって」（『参考書誌研究』第39号 国立国会図書館 1991）